



宮城県石巻北高等学校

2011年3月11日に発生した東日本大震災の約1年前、時代のニーズに対応できる人間の育成をめざした総合学科を開設し、「宮城県河南高等学校」は新たに「宮城県石巻北高等学校」としてスタートしました。

2013・2014年度は、宮城県金融広報委員会から「金融教育研究校」の委嘱を受け、「人生における金融機関との関わりを考える」をテーマに、2年間の金融教育活動を実践してきました。中でも、地域交流広場「とらまい」活動は、生徒が店を運営し、その面白さや難しさを実感しながら、起業に必要な知識や経験を身につけるための場として大きな意味を持つものでした。

「虎舞（とらまい）」とは、旧河南町鹿又地域の伝統舞踊です。この舞踊の伝承と店舗の経営を組み合わせた新たな学びの場が、この地域交流広場「とらまい」活動です。

総合学科には、5つの系列（食農・家庭・経情・教養・進学）があります。生徒たちは、消費者を意識しながら、農作物の栽培から加工、販売までを行う6次産業化を視野に入れ、食農系列は「商品の供給」、家庭系列は「レシピ作りや試食会の企画実施」、経情系列は「店舗経営全般」、生徒会役員は「他の高等学校や特別支援学校からの受託販売」等を担当し、様々な実践を積み重ね、地域の人々とのコミュニケーションも深めてきました。

「人の数だけ道がある」、「めざせ！地域のスペシャリスト！！」。「とらまい」活動は、今では学校活動の柱の一つとなっています。

学校のすぐ近くには北上川があります。石巻を育んできた母なる川は、東日本大震災で一瞬にして流失した街の復興とその未来をいつまでも見守っています。



北上川



地域交流広場「とらまい」



虎舞（とらまい）